

文化表現学科
観光実務士課程

2022年4月1日 更新

2022年4月25日 更新

科目名	観光学総論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	かんざき こういち 神崎 公一
ナバリンクコード	TOS3211		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	近年、観光が脚光を浴びているのは、経済効果が大きい、少子高齢化の中で観光を起爆剤にして地域を盛り上げたいなどの思いが背景にある。観光の歴史、産業としての観光、宿泊業や交通、旅行会社などの現状と課題、そうした業界がどのような人材を求めているかなどを学ぶ。							
到達目標	1. 観光全般について、その歴史、経済とのかかわりなどを総合的に説明できる。 2. 観光に関連する産業の構造について総合的、多面的に理解している。 3. 日本の観光に不可欠のインバウンドへの取り組みについて、語る事ができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ ）文化表現学科（1.2.4）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーションとガイダンス 講義の全体像の説明	予習	シラバスを読んでおくこと	復習	授業の狙いと意義についてまとめる	
	第2回	内容	観光とは何か。観光が重視される背景は何か	予習	なぜ、観光が重視されるのか調べておく	復習	授業内容を整理し、観光の役割をまとめておく	
	第3回	内容	お伊勢参りから始まる観光の歴史	予習	江戸時代からの観光の歴史を調べておく	復習	近年の温泉ブームを含む観光の歴史をまとめる	
	第4回	内容	観光と経済 産業としての観光業とは	予習	産業界における観光業について調べておく	復習	観光と他産業との比較などをまとめておく	
	第5回	内容	観光における日本の強みとは何か	予習	おもてなし文化など日本の強みを調べておく	復習	自分なりの日本の観光の強みをまとめておく	
	第6回	内容	諸外国における観光の位置付け	予習	フランスなど観光立国について調べておく	復習	授業に基づき海外の観光業の現状をまとめる	
	第7回	内容	観光産業① 宿泊業からみた観光	予習	コロナ禍対応を含め宿泊業について調べておく	復習	授業に基づき宿泊業の課題をまとめておく	
	第8回	内容	観光産業② 交通事業者＝鉄道、航空。旅行会社	予習	交通、旅行会社について調べておく	復習	交通、旅行会社の課題をまとめておく	
	第9回	内容	観光産業③ テーマパークと遊園地	予習	テーマパークと遊園地の現状を調べておく	復習	TDLがなぜ人気なのかなどを考えてみる	
	第10回	内容	期待されるインバウンド	予習	国、年ごとインバウンドの推移を調べておく	復習	インバウンドがなぜ重要かまとめておく	
	第11回	内容	日本人と海外旅行	予習	日本人の海外旅行の変遷について調べておく	復習	日本人の海外旅行の今後についてまとめておく	
	第12回	内容	GO TO トラベル、入国ビザ緩和と政府の観光政策	予習	政府の観光政策と観光庁について調べておく	復習	GO TO や訪日外国人対策についてまとめておく	
	第13回	内容	地方創生と観光	予習	自治体の観光の取り組みを調べておく	復習	観光で成功している地域をまとめておく	
	第14回	内容	観光と情報発信 マスコミからSNSまで	予習	観光にとって情報発信とは何かを調べておく	復習	情報発信に巧みな事例をまとめておく	
	第15回	内容	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習	発表するテーマを決め、資料を作っておく	復習	ディスカッションした内容をまとめておく	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題のフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（50％）、作品・発表（30％）、実技（ ）％、授業態度【積極的参加】（20％）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 使用しない。必要に応じ資料配布をする							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）令和3年版 観光白書 観光庁編。 ディズニーランドの秘密 有馬哲夫、新潮社。 よみうりランド70年史 よみうりランド・神崎公一編 中央公論事業出版社							
注意事項	授業内容は必ず筆記してください。予習、復習には観光地や地方自治体のウェブサイトを活用してください。							

科目名	観光地理学		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	かんざき こういち 神崎 公一
ナンバリングコード	TOS3221	授業形態	講義	実務経験				
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	日本と外国の観光地の地理を把握し、その特徴と観光地としての課題を総合的に理解できる授業とする。日本人が海外旅行をする場合、外国人観光客が日本旅行をする双方のケースで、交通・移動の現状について学ぶ。							
到達目標	1. 国内外の観光地の立地などを理解することで、地理的な知識を身につけている。 2. 観光地の歴史、地域とのつながり、文化などについて説明できる。 3. 観光・旅行業界で戦力となる人材を目指し、アピールできる。							
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科(1. 2. 3)							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 観光地理学とは何か、何を学ぶか	予習	シラバスを読んでおくこと	復習	授業の狙いと意義についてまとめる	
	第2回	内容	地域と観光の役割、交通ネットワークとの関係	予習	交通の発展と観光の関係を調べておくこと	復習	授業内容を整理しておくこと	
	第3回	内容	日本① 東京、大阪などの都市観光	予習	東京や大阪の観光地としての魅力を調べておく	復習	大都市の利便性についてまとめておく	
	第4回	内容	日本② 地方都市、温泉地	予習	地方の有名な観光地について調べておく	復習	遠隔地の観光地は不利か有利かをまとめておく	
	第5回	内容	中国① 北京、上海など	予習	中国の代表的な大都市について調べておく	復習	大都市の魅力についてまとめておく	
	第6回	内容	中国② シルクロード、三国志の舞台・四川省など	予習	日本人に人気の観光地について調べておく	復習	日本とこの地域の地理的關係をまとめておく	
	第7回	内容	韓国、台湾、香港、マカオ	予習	各地域の代表的観光地について調べておく	復習	日本とこの地域の地理的關係をまとめておく	
	第8回	内容	東南アジア タイ、ベトナム、マレーシアなど	予習	東南アジア各国の観光について調べておく	復習	日本とこの地域の地理的關係をまとめておく	
	第9回	内容	アニメツーリズムと聖地	予習	アニメツーリズムについて調べておく	復習	アニメの聖地について地理的にまとめておく	
	第10回	内容	アメリカ① 大都市 ニューヨーク、ロサンゼルスなど	予習	アメリカ東部と西部について調べておくこと	復習	日本とこの地域の地理的關係をまとめておく	
	第11回	内容	アメリカ② 大自然、国立公園	予習	アメリカの自然について調べておくこと	復習	アメリカ人と自然の関係をまとめておく	
	第12回	内容	カナダ 東部とカナディアンロッキー	予習	カナダの代表的な観光地について調べておく	復習	カナダ人と自然、都市の関係を調べておく	
	第13回	内容	ヨーロッパ、ロシア	予習	英仏独伊などとロシアについて調べておく	復習	日本とこの地域の関係をまとめておく	
	第14回	内容	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習	1-6回の講義の発表資料を作成しておく	復習	ディスカッションした内容を整理しておく	
	第15回	内容	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習	7-13回の講義の発表資料を作成しておく	復習	ディスカッションした内容を整理しておく	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google Classroomを用いて課題のフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない 成績評価の方法：筆記試験()%、レポート・課題(50%)、作品・発表(40%)、実技()%、授業態度【積極的参加】(10%)							
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。							
参考文献	『令和3年版 観光白書』(観光庁編)							
注意事項	授業内容は必ず筆記してください。取り上げる地域ごとの地図を持参してください。地図帳でもかまいません。							

科目名	異文化コミュニケーション		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	しばた 柴田 かつおる
ナバリンクコード	CUL3121		授業形態	講義	実務経験	有		
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	自分の常識が他人には通用しないことがあります。これは相手が誰であっても、その人物が育ってきた環境、文化、歴史などが異なることから生じる価値観の違いによるものです。このクラスでは、自分と違う価値観を持つ人々とのコミュニケーションを円滑に行うためには相手をより理解する力が身に付きます。							
到達目標	1. 人種民族国籍年齢性別を問わず自分と違う文化の人々を理解し受け入れることができる。 2. 自分と価値観や考え方の違う人々に、自分の考えを伝えることができる。 3. 異文化の人々に自国の文化についての的確に説明できる							
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科(1,2)							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 異文化とは何かについての考察	予習	シラバスを読んでくる			
				復習	異文化とは何かについて考えてみる			
	第2回	内容	身の回りで発見した異文化について考察する	予習	自分にとっての異文化について調べる			
				復習	異文化にいる人とのコミュニケーションについて考える			
	第3回	内容	食に見出す異文化についての考察1	予習	色の体験で異文化であると感じたことについてまとめてくる			
				復習	自分がある「食」について異文化であると感じる理由を考えてみる			
	第4回	内容	食に見出す異文化についての考察2	予習	自分にとって大切な食文化をどう説明するか考える			
				復習	自分が絶対に必要な食について、それを知らない人々に説明してみる			
	第5回	内容	日本国内で起きる異文化との摩擦について事例研究1	予習	身近なところで起きている異文化との摩擦について調べる			
				復習	異文化との摩擦が起きる原因を考える			
	第6回	内容	日本国内で起きる異文化との摩擦について事例研究2	予習	異文化に属する人々から見て、自分が当たり前と感じている文化はどう見られているか考えてくる			
				復習	自分が属する文化をどう説明すれば理解されるか考える			
	第7回	内容	贈り物について文化による違いを考察する	予習	自分が贈り物をするのはどういう時でどういう方法をとるのかまとめてくる			
				復習	文化による贈り物の違いを調べる			
	第8回	内容	パンデミックへの対応について文化館の違いを考察	予習	ニュースを参考に、異文化の人々のパンデミックへの対応が自分とはどう違うのか気が付いたことを挙げてみる			
復習				パンデミックに対して自分と異なる対応をする文化について調べる。				
第9回	内容	海外で起きている異文化間摩擦について1	予習	海外で起きている異文化摩擦の事例で興味のあるものについて調べる				
			復習	海外で起きている異文化摩擦の原因について考察する				
第10回	内容	海外で起きている異文化間摩擦について2	予習	海外で起きている異文化摩擦で理解できないものについて、なぜ理解できないのか考えてくる				
			復習	自分が理解できなかった海外の異文化摩擦の事例について調べる				
第11回	内容	自分と異なる宗教観について考察する1	予習	日本人は宗教心がないという人がいるが、果たして本当にそうか考えてくる				
			復習	興味のある宗教について調べる				
第12回	内容	自分と異なる宗教観について考察する2	予習	興味のある宗教について調べて発見したことをまとめてくる				
			復習	文化によってことなる宗教の位置づけを考察する				
第13回	内容	異文化から来た人々と意思の疎通を図る	予習	異文化から来た人々に自分の考えを伝える方法を考えてくる				
			復習	異文化から来た人々を理解するのに大切なことを考える				
第14回	内容	異文化から来た人々に日本について紹介する	予習	日本について自分は何を紹介できるのか考えてくる				
			復習	日本について自分が紹介したいことを調べてまとめる				
第15回	内容	授業の総括と演習	予習	ニュースを題材にして、異文化で起きたことで理解困難なことを考えてくる				

			復習	ニュースを題材にして、異文化で起きたことで理解しづらかったことについてその背景を調べる。
予習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	課題は授業中に発表してもらい、その場で感想や評価を伝えます。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（ 80 %）、授業態度【積極的に発表し、ディスカッションに参加、私語を慎む、ノートをとる】（ 20 %）			
教科書	その都度資料配布/google classroomにて、参考サイトの告知			
参考文献	特になし			
注意事項	授業中の私語は控えてください。 身の回りで異文化を意識することがあったら、それを小まめにメモして授業で生かしてください 日本国内外のニュースで、理解できないことに接したとき、なぜ理解できないのかを考える習慣をつけてください 授業はディスカッション、発表を中心にして進めていきます。グループワークも行います。			

科目名	実用英語		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	はやし たかこ 林 貴子
ナバリングコード	TOS3212		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	本授業は、観光業界や一般企業等で英語力の判断基準として利用される TOEIC のスコアアップを目指す。 TOEIC の問題を解くことによって、英語の基礎力を高め、語彙・表現力の向上と英文法の確認を行う。 また、TOEIC 試験対策を通じ、社会に出た時に英語が使えるように、実用的な英語表現を身に着ける。							
到達目標	1. 英語の基礎力を身に着ける（語彙を 3,000 語以上にする、基礎的な英文法を理解する、英語の日常会話やアナウンスが聞き取れる） 2. 英語で日常生活における基本的なコミュニケーションをとることができる 3. どのような分野の英語の文章でも大意を理解することができる							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ 1, 2, 3, 4 ）							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス (TOEIC L&R Test について、授業の進め方や宿題、小テストについて)	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	TOEIC の試験概要について確認する			
	第2回	内容	Unit 1. Events: 名詞 平叙文のリスニング問題と名詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる			
				復習	可算名詞・不可算名詞について理解する			
	第3回	内容	Unit 2. Eating Out: 代名詞 Yes/No 疑問文のリスニング問題と代名詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる			
				復習	代名詞の格と再帰代名詞について理解する			
	第4回	内容	Unit 3. Shopping: 動詞 買い物についてのリスニング問題と動詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる			
				復習	自動詞と他動詞について理解する			
	第5回	内容	Unit 4. Office: 進行形 同僚との会話のリスニング問題と進行形の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる			
				復習	進行形の用法について理解する			
	第6回	内容	Unit 5. Housing: 形容詞 住居に関する会話のリスニング問題と形容詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる			
				復習	形容詞・数詞について理解する			
	第7回	内容	Unit 6. Community: 副詞 地域行事に関する会話のリスニング問題と副詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる			
				復習	副詞の役割について理解する			
	第8回	内容	Unit 7. Facilities: 動名詞 施設に関する会話のリスニング問題と動名詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる			
				復習	動名詞の用法について理解する			
第9回	内容	Unit 8. Personnel: 品詞 面接での会話のリスニング問題と品詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる				
			復習	品詞について理解する				
第10回	内容	Unit 9. Meeting & Workshops: 不定詞 Workshop に関する会話のリスニング問題と不定詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる				
			復習	不定詞の 3 つの用法について理解する				
第11回	内容	Unit 10. Transaction & Finance: 接続詞 ローンに関する会話のリスニング問題と接続詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる				
			復習	接続詞の役割・前置詞との違いについて理解する				
第12回	内容	Unit 11. Travel: 前置詞 旅行に関する会話のリスニング問題と前置詞の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる				
			復習	前置詞の用法について理解する				
第13回	内容	Unit 12. Health: 比較 クリニックの予約電話のリスニング問題と比較の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる				
			復習	比較の基本的な 3 つの形を理解する				
第14回	内容	Unit 13. Letter & Email: 現在完了 Email に関する会話のリスニング問題と現在完了の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる				
			復習	現在完了形の 3 つの意味を理解する				
第15回	内容	Unit 14. Ads & Notice: 受動態 商品の割引に関するリスニング問題と受動態の知識習得	予習	当該 Unit の Key Vocabulary を覚えてくる				
			復習	受動態の形と能動態の違いについて理解する				
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	毎回実施する英単語の小テストに対し採点・返却を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 授業内小テスト（ 60 %）、授業態度【 積極的参加 】（ 40 %）							
教科書	『Full Gear for the TOEIC L&R Test』(Mark D. Stafford、妻鳥千鶴子、松井こずえ、金星堂)							
参考文献	なし（必要な際はプリントを配布する。）							
注意事項	毎回辞書（電子辞書・紙の辞書どちらでも可）を持参すること。スマートフォンを辞書として使用するのは不可。 成績評価に関して、学期中に TOEIC の受験を薦める。そのスコアにより成績を加点する場合がある。							

科目名	イベント・プランニング		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	なかにし きわ 中西 希和
ナバリングコード	FAS3212		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	観光関連産業の一つであるイベントは、「人と人」をつなぐコミュニケーション・メディアとしての役割を持ち、観光及びコミュニティ活動を活性化していくための効果的な手段として注目されています。この授業ではイベントについて理解し、観光と関連したイベントを企画することによって、観光アイデアを生み出し、提案していく力を身につけることを目指します。							
到達目標	1. イベントと観光の関係を理解し、説明できる 2. 観光に関するイベントのアイデアを発想することができる 3. アイディアをもとに新しいイベントの企画書を作成し、発表することができる							
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科(2,3)							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：イベントとは何か	予習	シラバスを読んでおくこと			
				復習	授業内容を理解すること			
	第2回	内容	イベントの歴史と分類	予習	イベントとは何かについて調べておく			
				復習	イベント内容について理解する			
	第3回	内容	コミュニケーション・メディアとしてのイベントの機能と効果	予習	イベントのコミュニケーション機能を調べる			
				復習	イベントのコミュニケーション機能を理解する			
	第4回	内容	観光産業としてのイベントの機能・効果	予習	観光とイベントの関係について調べておくこと			
				復習	観光とイベントの関係を理解すること			
	第5回	内容	観光及びイベントに関する関連法規	予習	観光・イベント関連法規について調べておく			
				復習	観光・イベント関連法規について理解すること			
	第6回	内容	博物館・美術館の展覧会① 展示のプロセス	予習	日本の博物館について調べておくこと			
				復習	博物館の展示について理解すること			
	第7回	内容	博物館・美術館の展覧会② 展示の事例	予習	日本の美術館について調べておくこと			
				復習	美術館の展示について理解すること			
	第8回	内容	イベントの企画	予習	イベントとは何かについて調べておくこと			
				復習	イベントの機能について理解すること			
第9回	内容	イベント企画の手法 アイディア発想	予習	イベントの発想を考えておくこと				
			復習	イベントの発想を具体化させること				
第10回	内容	イベント企画・立案	予習	イベントの企画について考えておくこと				
			復習	イベントの企画・立案について推敲しておく				
第11回	内容	イベント企画書の制作①	予習	イベント企画書を考えておくこと				
			復習	イベントの企画書の推敲をすること				
第12回	内容	イベント企画書の制作②	予習	イベント企画書をまとめる作業を覚えておく				
			復習	イベント企画書に遺漏がないか考えること				
第13回	内容	プレゼンテーション① 準備	予習	イベント企画書のプレゼンの準備をすること				
			復習	イベント企画を確認すること				
第14回	内容	プレゼンテーション② 発表	予習	発表の準備をしておくこと				
			復習	発表後の反省点・課題点を考えること				
第15回	内容	授業の振り返りとまとめ	予習	全体を総括して問題点・課題点を覚えておく				
			復習	実践に活かせることを考える				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内に小テストを実施し、解説と授業の振り返りを行います。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/()しない 成績評価の方法：筆記試験(30%)、レポート・課題(20%)、発表(30%)、授業態度【積極的参加、出席状況】(20%)							
教科書	なし。必要に応じ、プリントを配布します。							
参考文献	授業の中で随時、紹介します。							
注意事項								

科目名	観光事業論	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	かんざき こういち 神崎 公一
ナンバリングコード	TOS3217	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	余暇の過ごし方の上位にランク付けされる旅行・観光。それを担う観光事業の成り立ち、課題、またインバウンド対策などを総合的、多面的に理解し、説明できるようにする。旅行形態の変化（団体から個人へ）に観光事業はどのように対応しているかを学ぶ。						
到達目標	1. 観光業の成り立ち、規模など、さらに課題と将来性を含め説明できる。 2. これからの日本の観光に何が必要かについて、インバウンド対策を含め説明できる。 3. 新型コロナウイルス感染症と観光業の対応などに関し、自分なりの意見を言える。						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ 1. 2. 3）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーションとガイダンス。本講義の全体像	予習	シラバスを読み、講義の全体像を理解しておく	復習	自分が何を学ぶかをまとめておく
	第2回	内容	観光事業の歴史、規模、将来像	予習	観光事業とは何かを考えておく	復習	旅行会社、宿泊業の歴史などをまとめておく
	第3回	内容	一泊二食、日本の宿泊業の特色	予習	日本の宿泊業の特色を調べておく	復習	これからの宿泊業についてまとめておく
	第4回	内容	団体旅行から個人旅行への推移と旅行業界	予習	旅行形態の推移について調べておく	復習	個人旅行、ひとり旅についてまとめておく
	第5回	内容	若者の旅離れとシニアの余暇の使い方としての旅	予習	若者とシニアの旅について調べておく	復習	若者とシニアの旅の将来についてまとめておく
	第6回	内容	観光事業とデフレ 格安旅行は続くのか	予習	宿泊費や交通費の格安化について調べておく	復習	なぜ、格安旅行が増えたのかをまとめておく
	第7回	内容	くまモンなどゆるキャラ、B級グルメと観光業界	予習	ゆるキャラ、B級グルメについて調べておく	復習	集客とゆるキャラなどの関係をまとめておく
	第8回	内容	観光事業と鉄道、航空業界。	予習	交通機関の観光重視の狙いを調べておく	復習	交通機関のこれからの経営戦略をまとめておく
	第9回	内容	観光事業と車、旅先での移動、二次交通問題	予習	旅の目的地からの移動について調べておく	復習	二次交通がなぜ問題となるかをまとめておく
	第10回	内容	観光事業とインバウンド 富裕層対策	予習	観光における富裕層とは何かを調べておく	復習	富裕層対策の重要性をまとめておく
	第11回	内容	観光事業と地方自治体の取り組み、GO TO トラベル	予習	コロナ禍での観光業界支援を調べておく	復習	GO TO トラベルの効果などをまとめておく
	第12回	内容	旅行のネット予約と旅行会社、キャンセル増問題	予習	ネット予約の現状を調べておく	復習	ネット予約の問題点をまとめておく
	第13回	内容	観光事業と日本の休暇制度。GW、夏休みなどの休暇集中	予習	日本と欧米の休暇制度を調べておく	復習	観光にとって休暇の持つ意味をまとめておく
	第14回	内容	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習	1-7回の講義から発表資料を作成しておく	復習	ディスカッションした内容をまとめておく
	第15回	内容	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習	8-13回の講義から発表資料を作成しておく	復習	ディスカッションした内容をまとめておく
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題のフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（ 50 %）、作品・発表（ 40 %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（10%）						
教科書	使用しない。必要に応じ、資料を配布する。						
参考文献	『新・観光立国論』（デービッド・アトキンソン、東洋経済新報社） 『令和3年版観光白書』（観光庁編）						
注意事項	授業内容は必ず筆記してください。事前に次回講義の概要を知らせるので、ウェブなどを活用して調べてきてください。						

科目名	環境ツーリズム論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	かんざき こういち 神崎 公一
ナンバリングコード	TOS3223		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	地球温暖化や海洋汚染などが地球的問題となっている中で、観光業の発展はどのようにあるべきかを考え、その一環としての環境ツーリズムについて学ぶ。成功事例や問題点、そして日本と世界の環境ツーリズムとは何か、観光と環境の両立は可能かを考える授業とする。							
到達目標	1. 近年、注目されている環境ツーリズムの重要性を理解できる。 2. 環境ツーリズムの実践例を知ることによって、課題などを説明できる。 3. 自分自身の問題として観光と環境の両立が可能かについて、意見をまとめられる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ 1. 2. 3 ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーションと授業の全体像	予習	シラバスを読み、授業の意義を考えること			
				復習	自分なりに何を学ぶかをまとめておく			
	第2回	内容	環境ツーリズムとは何か。なぜ今、注目されるのか	予習	環境ツーリズムが注目される理由を調べる			
				復習	地球温暖化との関連性をまとめておく			
	第3回	内容	観光＝経済と環境は両立するのか	予習	経済優先＝儲けと環境について調べておく			
				復習	経済と環境の両立事例をまとめておく			
	第4回	内容	環境ツーリズムと日本エコツーリズム協会の活動	予習	日本エコツーリズム協会の活動を調べる			
				復習	同協会加盟の団体についてまとめておく			
	第5回	内容	環境ツーリズムの実践例① 里山・村落	予習	埼玉県飯能の環境ツーリズムについて調べる			
				復習	全国の環境ツーリズムについてまとめておく			
	第6回	内容	環境ツーリズムの実践例② 温泉	予習	岐阜県下呂温泉の環境ツーリズムに関し調べる			
				復習	温泉地の環境ツーリズムについてまとめておく			
	第7回	内容	環境ツーリズムの実践例③ 世界遺産	予習	岩見銀山、佐渡などの環境と観光を調べておく			
				復習	世界遺産と環境問題についてまとめておく			
	第8回	内容	インバウンドと環境ツーリズム	予習	外国人の環境問題の関心の高さを調べておく			
				復習	外国人対象の環境ツーリズムをまとめておく			
第9回	内容	海外の環境ツーリズム① カナダ	予習	カナダ、特にバンフの環境対策を調べておく				
			復習	カナダ国民と環境、観光の関係をまとめておく				
第10回	内容	海外の環境ツーリズム② ハワイ	予習	観光の島、ハワイについて調べておく				
			復習	ハワイ観光の環境対策をまとめておく				
第11回	内容	旅行業界と環境ツーリズム	予習	環境ツーリズムと旅行業界の関係を調べておく				
			復習	環境ツーリズムが不可欠な理由をまとめておく				
第12回	内容	企業が取り組む環境ツーリズム	予習	JAL, JR などの環境への取り組みを調べておく				
			復習	企業が環境に配慮する理由をまとめておく				
第13回	内容	旅行者自身が行う環境に優しい旅とは	予習	環境に優しい旅はどのようなものか調べておく				
			復習	環境に優しい旅の具体的事例をまとめておく				
第14回	内容	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習	1-7回に講義について発表資料を作っておく				
			復習	ディスカッションした内容を整理しておく				
第15回	内容	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習	8-13回の講義について発表資料を作っておく				
			復習	ディスカッションした内容を整理しておく				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題のフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（ 50 %）、作品・発表（ 40 %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（10%）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 使用しない。必要に応じ資料を配布する。							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『観光の力』（半藤将代、日経ナショナルジオグラフィック社） 『日本エコツアー・ガイドブック』（海津ゆりえ、岩波書店） 『エコツーリズムの世紀へ』（エコツーリズム推進協議会）							
注意事項	授業内容は必ずノートに筆記すること。事前に次回の授業内容を伝えます。日本エコツーリズム協会のウェブなどを参考にしてください。							

科目名	エアライン実務		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	ひらい みちこ 平井 美知子
ナンバリングコード	TOS3216		授業形態	演習	実務経験	有		
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	エアラインで働くキャビンアテンダント及び地上スタッフの仕事への取り組み方を学びます。接客業はじめとする仕事の現場で求められる、知識・適正と能力(美しい言葉づかい・立ち居振る舞い・おもてなしの心)を学び実践できるスキルを身につけます。グローバル社会に対応できる、物事を柔軟に対処し、自ら考え、行動できる、ホスピタリティマインドにあふれた人材を育てます。							
到達目標	1. エアライン・輸送業界で働く様々な方々の仕事を理解している 2. グローバル社会に適応できる、考え方や行動力・ホスピタリティマインドを日々の生活の中で発揮できる 3. 日本人としての素養である、美しい日本語・立ち居振る舞い・おもてなしの心を身につけ実践できる							
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科(1234)							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション ・CAの仕事とその魅力について CA 仕事研究	予習	シラバスを読み、授業概要、評価方法等理解しておく			
				復習	この科目を通して習得・体得することを理解する			
	第2回	内容	エアラインのホスピタリティを学ぶ ・日常のマナーとホスピタリティ	予習	課題シートに取り組む			
				復習	授業用ノートを復習する			
	第3回	内容	エアラインのホスピタリティを学ぶ ・日常生活のマナーとホスピタリティ	予習	課題シートに取り組む			
				復習	授業用ノートを復習する			
	第4回	内容	エアラインのホスピタリティ実践に必要な基礎力の養成① 自己理解と社会に求められる能力理解	予習	課題シートに取り組む			
				復習	日々の行動から自己理解を深める			
	第5回	内容	エアラインのホスピタリティ実践に必要な基礎力の養成② 自己表現力の養成① 身だしなみ・立ち居振る舞い	予習	課題シートに取り組む			
				復習	体得した身だしなみ・立ち居振る舞いを実行する			
	第6回	内容	エアラインのホスピタリティ実践に必要な基礎力の養成③ 自己表現力の養成②好感を与える言葉づかい・表現法	予習	課題シートに取り組む			
				復習	習得した好印象の接客対応を身につける			
	第7回	内容	「ホスピタリティ」の歴史と文化 ・西洋と東洋のホスピタリティ文化・日本のおもてなし文化	予習	課題シートに取り組む			
				復習	習得した感じのよいヘア・メイクを実践する			
	第8回	内容	組織と顧客とホスピタリティ ・顧客満足 (Customer Satisfaction) の重要性	予習	課題シートに取り組む			
				復習	日々、日本のおもてなしの心を実践する			
第9回	内容	ホスピタリティコミュニケーションの養成① ・コミュニケーション能力とは 情報の共有、「話すスキル」	予習	課題シートに取り組む				
			復習	日々の生活の中で、CSを意識して行動する				
第10回	内容	ホスピタリティコミュニケーションの養成 ② ・「聴くスキル」・「質問のスキル」	予習	課題シートに取り組む				
			復習	取得した話すスキルを実践する				
第11回	内容	チームの中でホスピタリティを発揮する ・チームワークの重要性・必要な要素・チームビルディング	予習	課題シートに取り組む				
			復習	習得した聴くスキル、質問のスキルを実践する				
第12回	内容	ホスピタリティ溢れる自分づくり ・「自分の強み」を活かすポジティブシンキング	予習	課題シートに取り組む				
			復習	チーム活動を意識した行動を行う				
第13回	内容	エアライン適正開発 ① ・好印象な接客対応を体得する (演習)	予習	課題シートに取り組む				
			復習	日々、ポジティブシンキングを実践する				
第14回	内容	エアライン適正開発 ② ・好印象な接客対応を体得する (演習)	予習	課題シートに取り組む				
			復習	習得した好印象の接客対応を身につける				
第15回	内容	エアライン適正開発 ③ ・好印象な接客対応を体得する (演習)	予習	課題シートに取り組む				
			復習	習得した好印象の接客対応を身につける				
予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題シートに対してコメントを行う							
成績評価	試験期間における定期試験：実施(○)する/()しない 成績評価の方法：筆記試験(60%)、レポート・課題(20%)、作品・発表()%、実技()%、授業態度【自主性】(20%)							
教科書	特になし							
参考文献	『月刊 エアステージ』(イカロス出版) 『月刊 エアライン』(イカロス出版)							
注意事項	授業で学んだことを日々復習し、自己表現力やマナー、コミュニケーションスキルを身につけられるよう取り組んでほしい。							

科目名	エアライン英会話		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	ひらい みちこ 平井 美知子
ナバリングコード	TOS3213		授業形態	演習	実務経験	有		
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	グローバル社会のエアラインには必須の英語力を身につけます。 エアライン業務を想定し、ホスピタリティマインド溢れるお客様対応のフレーズを演習します。 簡単な英語インタビューの応答を練習し、英語での自己表現ができるようになります。							
到達目標	1. 英語での自己表現が、感情豊かにできる 2. 英語での質疑応答ができる 3. エアライン業務の現場で、英語のコミュニケーションが自主的にできる							
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科(2, 3)							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション ・ Airline Terms ①	(ペア・ワーク)	予習	シラバスを読み、授業概要、評価方法等理解しておく	復習	エアライアンでよく使われる用語を理解する
	第2回	内容	Airline Terms ② Public Announcements I	(ペア・ワーク)	予習	前回の機内用語を覚える	復習	用語と機内アナウンスの言い回しを覚える
	第3回	内容	Flight Operation Public Announcements II	(ペア・ワーク)	予習	前回学習した用語と意味を覚える	復習	機内アナウンスの日本語・英語を覚える
	第4回	内容	Air craft Public Announcements III	(ペア・ワーク)	予習	飛行機の種類と言い方について調べる	復習	日本語と英語の機内アナウンスを覚える
	第5回	内容	Public Announcements (Welcoming)	(ペア・ワーク)	予習	1～3回で覚えた用語を復習してくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第6回	内容	Role playing (check-in)	(ペア・ワーク)	予習	1～3回で覚えた用語を復習してくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第7回	内容	Role playing (Boarding)	(ペア・ワーク)	予習	1～3回で覚えた用語を復習してくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第8回	内容	Role playing (before take-off)	(ペア・ワーク)	予習	1～3回で覚えた基本用語を復習してくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第9回	内容	Role playing (In-flight service)	(ペア・ワーク)	予習	基本の機内用語を復習してくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第10回	内容	Role playing (Meal service)	(ペア・ワーク)	予習	基本の機内用語を復習してくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第11回	内容	Role playing (Special Meal)	(ペア・ワーク)	予習	基本の機内用語を復習してくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第12回	内容	Role playing (Route Information)	(ペア・ワーク)	予習	基本の機内用語を復習してくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第13回	内容	English interview①		予習	自分のことを英語で伝えられるようにしてくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第14回	内容	English interview②		予習	自分のことを英語で伝えられるようにしてくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	第15回	内容	English interview③		予習	自分のことを英語で伝えられるようにしてくる	復習	日本語と英語で対応できるよう覚える
	予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題シートに対してコメントを行う							
成績評価	試験期間における定期試験：実施(○)する/()しない 成績評価の方法：・筆記試験(60%)、実技(20%)、授業態度【自主性】(20%)							
教科書	『書名』(著者名、出版社名) なし							
参考文献	『書名』(著者名、出版社名) なし							
注意事項	授業で学んだことを日々復習し、英語で表現することに取り組んでほしい。配布シートは必ずファイルをして、テキストファイルを作成する							

科目名	観光英会話		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	はやし たかこ 林 貴子
ナバリングコード	TOS3222		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()							
授業の内容	本授業では、外国にルーツを持つ顧客に英語で対応する際の基本的な表現や説明の仕方を中心とした英会話を学ぶ。 近年のグローバル化の進展に伴い、英語による適切でスムーズなコミュニケーションを図ることが必要とされることを鑑み、外国人客と日本人スタッフの二者間の会話を中心として、ロールプレイング等による練習を行う。							
到達目標	1. 外国人観光客に英語で必要な情報を提供することができる 2. 観光ビジネスや接客に関する基本的な英会話を身につけている 3. 外国人に英語で日本の文化や伝統を紹介することができる							
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科(1, 2, 4)							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス (授業概要説明、成績評価説明)	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	授業の進め方や成績評価について確認する			
	第2回	内容	Unit 1. Transportation	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第3回	内容	Unit 2. At a Check-in Counter (hotel)	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第4回	内容	Unit 3. Facilities and Services (hotel)	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第5回	内容	Unit 4. Giving Directions	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第6回	内容	Unit 5. Recommending a Trip	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第7回	内容	Unit 6. Dining in Japan ①	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第8回	内容	Unit 7. Dining in Japan ②	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第9回	内容	Unit 8. Arranging a Tour	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第10回	内容	Unit 9. Staying at a Ryokan	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第11回	内容	Unit 10. Culture Experience in Japan ①	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第12回	内容	Unit 11. Culture Experience in Japan ②	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第13回	内容	Unit 12. Japanese Souvenirs	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第14回	内容	Unit 13. Dealing with Health Problems and Emergencies	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
	第15回	内容	Unit 14. Dealing with Complaints and Accidents	予習	Unit の Key Expressions と Vocabulary Check を覚える			
				復習	Unit の会話文と説明文を音読する			
予習に要する学習時間：概ね 40 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	発言の際、発音や英語の表現等についてのフィードバックを行う。また授業内に実施する小テストの採点・評価をして返却する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する／(○)しない 成績評価の方法：授業内小テスト(60%)、実技(10%)、授業態度【積極的参加】(30%)							
教科書	『Hospitality on the Scene』(上杉恵美・阿部佳・渭東史江・神末武彦・Jacob Schere、金星堂)							

参考文献	なし（必要な際はプリントを配布する。）
注意事項	毎回辞書（電子辞書・紙の辞書可）を持参すること。スマートフォンを辞書として使用するのは不可。会話のクラスなので、積極的に英語を話すこと。

科目名	文化を訪ねる		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	なかにし きわ 中西 希和
ナンバリングコード	CUL3221		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	京都について学んだことを基にして行動計画を作成し、12月の初旬に2泊3日の日程で京都を訪ねる。							
到達目標	1. 各自で旅行中の行動計画が立てられる 2. 行動計画に基づいて円滑に行動できる 3. 旅行の成果をパワーポイントなどで発信できる							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ 1、2 ）							
授業計画	第1回	内容	授業の始まりにあたって～旅行の概要と留意点	予習	京都に関する資料を用意する	復習	メモや書き込などを整理しておく	
	第2回	内容	テーマの設定	予習	テーマの候補を幾つか用意する	復習	設定したテーマについて整理しておく	
	第3回	内容	行動計画書の作成と提出	予習	行動計画の原案を用意する	復習	行動計画書の細部を詰めて完成する	
	第4回	内容	京都を歩く（ボランティアの清掃活動）	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第5回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅠ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第6回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅠ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第7回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅠ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第8回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅡ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第9回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅡ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第10回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅡ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第11回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅡ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第12回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅢ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第13回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅢ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第14回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅢ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	第15回	内容	行動計画に基づいて京都を歩くⅢ	予習	行動計画を改めて確認しておく	復習	入場拝観券やパンフレットなどを整理しておく	
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題提出時に口頭で伝える							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（ 50 %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【行動計画の作成】（ 50 %）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 資料を配布する							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 必要に応じて指示する							
注意事項	京都を歩くⅠ～Ⅲは3日間の集中講義							

科目名	インターンシップ		単位数	2	授業時間数	90	担当教員 いとう あきよし 伊藤 明芳
ナバリングコード	CAE3221		授業形態	実習	実務経験		
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	本実習では、社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力の基本を理解して身につけ、また、実際の現場での実習を通して職業の実際を理解することを目指します。これらの学びや体験により、働くことの意味や責任をより豊かに考えることができ、将来の職業選択に寄与すると考えられる。						
到達目標	1. 社会人として必要なマナーや作法の基礎を身につけている。 2. 社会人としてのコミュニケーション能力の基本が身につけている。 3. 職業選択活動、就業における積極性を身につけている。 (※ コロナ禍の状況により授業計画の内容に変更が生じる場合がある)						
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科(2,3,4)						
授業計画	第1回	内容	イントロダクション(インターンシップとは何か)	予習	インターンシップについて調べる。		
				復習	本実習の概要を理解する。		
	第2回	内容	基本的なマナー①(心構え、言葉遣い、身だしなみ等)	予習	実習での必要なマナーについて考える。		
				復習	各マナーを整理する。		
	第3回	内容	基本的なマナー②(電話のかけ方、受け方等)	予習	電話の応答について考える。		
				復習	電話応答について整理する。		
	第4回	内容	インターンシップ実習受入企業・団体の業種、職業の調査	予習	実習先を考える。		
				復習	実習先の情報をまとめる。		
	第5回	内容	書類の書き方、面接の受け方	予習	面接マナーについて考える。		
				復習	書類の書き方を復習する。		
	第6回	内容	実習先の決定と申し込み	予習	実習先へ申し込みを準備。		
				復習	実際に実習先への連絡を実施する。		
	第7回	内容	先輩から学ぶ(先輩による体験報告会)	予習	インターンシップの体験過程を推測する。		
				復習	先輩からの学びを整理する。		
	第8回	内容	インターンシップ実習	予習	翌日の実習の仕事内容を確認する。		
			復習	実習時の学びを振り返る。			
第9回	内容	インターンシップ実習	予習	翌日の実習の仕事内容を確認する。			
			復習	実習時の学びを振り返る。			
第10回	内容	インターンシップ実習	予習	翌日の実習の仕事内容を確認する。			
			復習	実習時の学びを振り返る。			
第11回	内容	インターンシップ実習	予習	翌日の実習の仕事内容を確認する。			
			復習	実習時の学びを振り返る。			
第12回	内容	インターンシップ実習	予習	翌日の実習の仕事内容を確認する。			
			復習	実習時の学びを振り返る。			
第13回	内容	インターンシップ実習報告会準備	予習	報告会の内容を考える。			
			復習	報告会の発表内容を確認する。			
第14回	内容	インターンシップ実習報告会②(受講生の発表)	予習	報告会の練習をする。			
			復習	報告会を振り返り学びを深める。			
第15回	内容	インターンシップ実習報告会②(講評)	予習	報告会の練習をする。			
			復習	報告会を振り返り学びを深める。			
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	インターンシップ実習と発表の講評をおこなう。						
成績評価	試験期間における定期試験：(○)しない 成績評価の方法：レポート・課題(20%)、作品・発表(20%)、実技(60%)						
教科書	特に指定しない。						
参考文献	授業時に必要に応じて随時紹介する。						
注意事項							

科目名	キャリアスタディ(企業人に学ぶ)	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	のなか ひろふみ 野中 博史 他
ナンバリングコード	CAE3213	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他()						
授業の内容	企業との連携により実施する授業です。現役で働いている企業の方を講師としてお招きし、企業の職種・業務の内容を中心とした説明を受ける授業と社会人としてのマナーなどを学ぶ授業の2本立てとなっています。授業を通じて、就業する際に必要な「業種・職種」を理解し、併せて企業の「人材採用方針」「社会人としてのマナー」等についても認識できるようにします。宿題として、毎回「気づきノート」の執筆を課すアクティブラーニングの授業です。						
到達目標	1. 企業の職種、業種を理解することができる。 2. 企業の人材採用方針について理解することができる。 3. 社会人としてのマナーやTPOを知り、企業社会と働き方を認識することができる。						
学位授与方針	幼児教育学科() 地域保育学科() 文化表現学科(2. 3. 4)						
授業計画	第1回	内容	授業内容の説明。課題解決ノートの使い方。	予習	シラバスを読んでおくこと。		
				復習	授業内容を確認すること。		
	第2回	内容	産業界・企業研究① *産業界の説明は全て異業種になります。	予習	事前の予定表に基づいて産業界・企業について調べておくこと。		
				復習	気づきノートに記入し確認すること。		
	第3回	内容	社会人としてのマナー①	予習	社会人としてのマナーについて調べておくこと。		
				復習	気づきノートに記入し確認すること。		
	第4回	内容	産業・企業研究②	予習	事前の予定表に基づいて産業界・企業について調べておくこと。		
				復習	気づきノートに記入し確認すること。		
	第5回	内容	社会人としてのマナー②	予習	社会人としてのマナーについて調べておくこと。		
				復習	気づきノートに記入し確認すること。		
	第6回	内容	産業界・企業研究③	予習	事前の予定表に基づいて産業界・企業について調べておくこと。		
				復習	気づきノートに記入し確認すること。		
	第7回	内容	社会人としてのマナー③	予習	社会人としての礼儀や作法について調べておくこと。		
				復習	気づきノートに記入し確認すること。		
	第8回	内容	産業界・企業研究④	予習	事前の予定表に基づいて産業界・企業について調べておくこと。		
				復習	気づきノートに記入し確認すること。		
第9回	内容	社会人としてのマナー④	予習	社会人としての礼儀や作法について調べておくこと。			
			復習	気づきノートに記入し確認すること。			
第10回	内容	産業界・企業研究⑤	予習	事前の予定表に基づいて産業界・企業について調べておくこと。			
			復習	気づきノートに記入し確認すること。			
第11回	内容	社会人としてのマナー⑤	予習	メイク等について調べておくこと。			
			復習	気づきノートに記入し確認すること。			
第12回	内容	産業界・企業研究⑥	予習	事前の予定表に基づいて産業界・企業について調べておくこと。			
			復習	気づきノートに記入し確認すること。			
第13回	内容	社会人としてのマナー⑥	予習	メイク等について調べておくこと。			
			復習	気づきノートに記入し確認すること。			
第14回	内容	産業界・企業研究⑦	予習	事前の予定表に基づいて産業界・企業について調べておくこと。			
			復習	気づきノートに記入し確認すること。			
第15回	内容	社会人としてのマナー⑦	予習	これまでに配布した教材を確認すること。			
			復習	就業・就職に備えたマナーを整理すること。			
予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題(気づきノートの作成)などを通じて学習内容の理解増進を図ります。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない 成績評価の方法：筆記試験()%、レポート・課題(80%)、作品・発表()%、実技()%、授業態度【課題への対応等】(20%)						
教科書	『書名』(著者名、出版社名)特にありません。						
参考文献	『書名』(著者名、出版社名)特にありません。						
注意事項	講義内容をまとめた「気づきノート」の執筆を課題とし、授業終了後に提出して頂きます。成績評価にテストはありません。80%は気づきノートの内容とします。						